

北福島農業協同組合（JA北福島）



代表理事組合長	松野正記	役員数	26名
所在地	〒960-01 福島市北矢野目 字原田東1-1	理事	19名（うち常勤 1名）
	☎0245-53-3101	監事	7名
設立年月日	昭和39年5月1日	職員数	169名（男127名 女42名）
		臨時	24名

I 地区の概況

当地区は福島県の北部に位置する福島市の中央部に東西に横たわり、南部には信夫山をかかえた、面積75km²と福島市総面積の10%を占めている地域で、吾妻山系から流れる水は松川・小川・摺上川となって田畑を潤し、福島市を南北に縦貫する阿武隈川に注いでいる。また、阿武隈高地と奥羽山脈にはさまれた盆地のため内陸性気候となっており、夏は猛暑が続き冬は寒さが厳しい。特産物はりんご・もも・なし・ぶどう・いちご等となっている。

地区内には東北新幹線、東北自動車道及び国道4号線・13号線が南北に縦貫し、中央部を東西に横断する農免道路が両国道を結んでいる。

東北自動車道のインターチェンジが至近の地にあり、福島市中央卸売市場、JA福島ビル等も間近で、さらに地区内にフライト農業の基地建設が予定されるなど県北地方の重要な交通の基点であり、首都圏農業を担う大きな役割を果たしている。反面、農地の潰廃が激しく、農業を営む環境は厳しく大きな課題となっている。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

合併前後における当地区の農産物は米が主力であり、りんご等の果樹もあったが野菜もある程度のウエイトを占めていた。

昭和45年頃より、水田転作や都市化の進行による農地転用等から耕地(水田)が年々減少し、反面、規模拡大のための農地造成等により果樹中心となり、米・野菜が少なくなってきた。特にぶどうは水田転作と併行して拡大され、りんご・もも・なし・ぶどうの4大果樹と、さらにいちごが加わり、この5つの品目が当地区の主力農産物として定着した。

その中で合併2年目で本所共選場、4年目に西部共選場をそれぞれ設置し、共販体制への施設整備が進められた。さらに56年には新たに西部りんご共選場を設置。名実ともに全面共選に踏み切った。

販売に対する基本的な考え方は、一環して“計画的な重点市場への継続出荷”。量販店対応からくる市場側の要望にも応える産地体制を確立することである。長い期間市場での占有が有利な販売に連なることであり、北福島は各市場から注目・評価されてきている。

近年は施設栽培が盛

んになり、その他各種研究会も発足し、今後の厳しい産地間、品目毎の競合に対応し、また収益性の高い農業経営の確立を目指し、全量共選共販体制でさらなる評価と、消費者に喜ばれる産地形成を図っている。

2 経営の推移

当J Aは、合併にあたり1800万円の欠損金を引き継ぎ、さらに合併初年度未曾有の大凍霜害に遇い、組合員はもとより農協でも大きな打撃を受け1000万円の欠損金が累計され、合併当初から前途多難な船出となった。

しかし、このような時こそ合併の強みを発揮

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

年次		25	35	40	50	60	2
項 目	総 農 家 戸 数 (戸)	2,441	2,484	2,441	2,173	1,898	1,772
	うち 専 業 (戸)	1,394	1,022	535	404	343	338
	I 種兼業 (戸)	659	936	1,162	726	453	336
	II 種兼業 (戸)	388	526	744	1,043	1,102	1,098
	経営耕地面積 (ha)	2,237	2,348	2,228	1,744	1,518	1,448
うち	田 (ha)	1,245	1,170	1,110	767	606	563
	畑 (ha)	544	475	384	280	185	165
	樹 園 地 (ha)	563	703	734	697	727	720
	稲 (ha)	1,714	1,601	1,478	982	757	622
	麦 類 (ha)	801	600	183	1		
収 穫 面 積	い も 類 (ha)	336	301		75	14	24
	野 菜 類 (ha)	114	759	704	442	292	224
	果 実 類 (ha)	292	763	788	747	896	746
	飼 料 作 物 類 (ha)		116	32	48	22	18
	た ば こ (ha)	23	6	4	3	2	2
飼 育 頭 羽 数	乳 用 牛 (頭)	141	496	592	246	173	141
	肉 用 牛 (頭)	1,127	685	310	208	78	96
	豚 (頭)	246	698	1,352	1,622	1,692	747
	に わ と り (千羽)	7	27	34	15	19	2
	ブロイラー (千羽)			16	60	3	250

(注) 収穫面積、飼育頭羽数には福島市農協及び旧福島市杉妻農協の分も含まれる
ブロイラー 50年以降は出荷羽数

する時と、この欠損金の解消を最重点に役職員一体となって取り組み、さらには健全経営の確立のため、県の「農協更生特別措置要綱」に基づく再建整備の指定を受け、役職員は勿論組合員一体となり鋭意努力した結果、合併5年目には赤字を解消し経営も軌道に乗り、組合本来の役割を果たした。

その後高度経済成長の波に乗り、以来本所事務所の建築を始めとして、新規事業のための各種施設を設置し、さらに各支所を新築する等施設の充実を図り、又電算加入第1号として機械を導入して事務の合理化と組合員に対する精算事務の迅速化を図り、組合員の利便の向上に努めた結果、各事業共順調な発展を見た。

しかし、当地区は年々都市化が進み農耕地の減少が甚だしく、また兼業農家の増大と就農者の高齢化、さらには後継者不足等による労働力不足等の問題も増え、農家経営基盤の構造が著しく変化している。また近年の異常気象、減反政策、金融の自由化、米の輸入自由化等問題が山積し、J A経営は非常に厳しい状況にある。

3 農業協同組合の設立

J A北福島の前身は、昭和23年に設立された大笹生村農業協同組合、笹谷村農業協同組合、清水農業協同組合、余目村農業協同組合、瀬上農業協同組合、福島市鎌田農業協同組合と23年

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

年度		24	30	39 (合併年度)	40	50	60	5
項目								
正組合員戸数(戸)		2,424	2,331	2,164	2,170	2,122	1,913	1,823
准組合員戸数(戸)		152	158	232	436	650	716	1,400
資 産	余 裕 金	14,402	35,952	188,329	328,561	3,578,346	11,226,274	19,711,157
	貸 出 金	12,331	70,188	203,649	243,040	1,810,021	4,296,843	4,804,546
	その他流動資産	14,782	64,649	137,568	113,907	567,683	1,058,204	1,133,550
	固 定 資 産	3,683	14,767	58,984	127,991	397,969	596,004	625,399
	外 部 出 資	311	7,558	16,070	14,883	53,272	169,432	273,005
負 債 及 び 資 本	貯 金	32,942	102,208	459,026	671,574	5,680,745	14,987,704	23,264,788
	借 入 金	11,070	64,140	48,866	65,892	75,425	92,495	10,015
	そ の 他 負 債		16,495	75,719	58,814	492,759	1,546,097	2,268,798
	出 資 金	2,134	14,383	39,153	57,216	128,179	508,100	645,899
	積 立 金	55	732			24,000	16,512	335,959
主 な 事 業 実 績	剰 余 金	127	-193	-18,162	-25,114	15,183	51,849	22,198
	販 売 取 扱 高	74,208	257,861	459,091	634,235	2,206,230	2,424,776	1,500,034
	うち 米 穀		133,359	184,505	247,897	512,775	457,610	97,397
	青 果 物		116,997	233,193	347,425	1,404,830	1,852,257	1,318,572
	野 菜		1,830	29,491	24,838	222,175	37,823	64,295
	畜 産 物			8,537	13,511	66,450	75,182	19,770
	そ の 他		5,675	3,365	564		1,904	
	購 買 取 扱 高	33,126	114,061	265,434	375,350	2,098,743	3,431,057	3,776,554
	うち 生産資材		91,836	215,000	296,854	1,330,335	2,235,310	2,130,365
	生活資材		22,225	50,334	78,496	768,408	1,195,747	1,646,189
	長期共済保有高			568	950	15,650	98,733	154,165

(注) 合併以前の年度は合併参加農協の合計

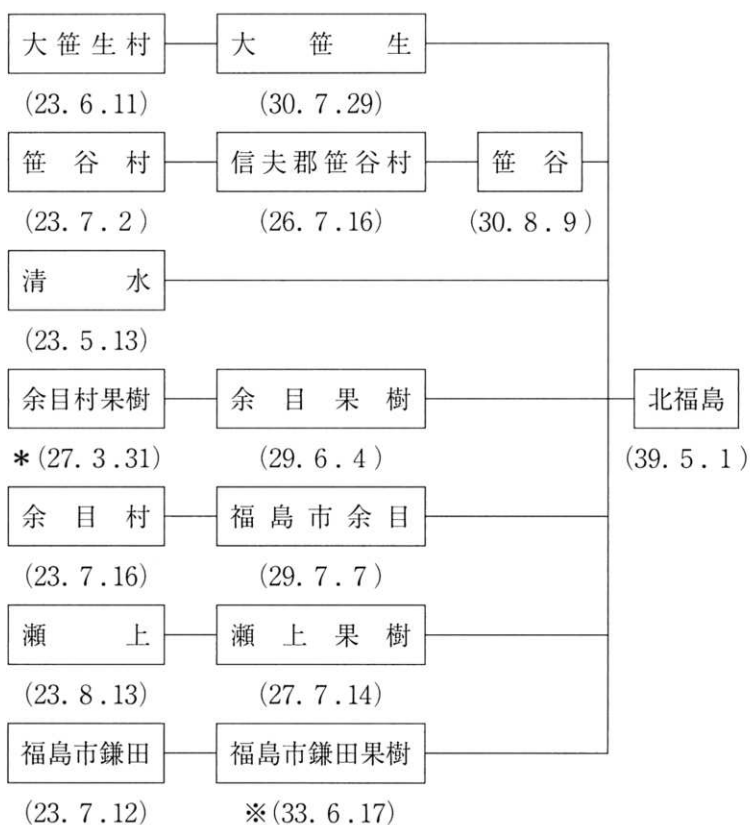
に設立され27年に総合農協に認可された余目果樹農業協同組合の7農協である。

39年5月1日に7農協の資産を受け継いで合併し、北福島農業協同組合となった。

4 合併までの経過

敗戦後の日本において、企業は全力をあげて

図表3 合併等の経緯



(注) * 総合農協として認可された年月日
※ 果樹専門農協と合併して新設された年月日

図表4 合併参加農協の概要

組 合 名	組合長名	組 合 員 数	役 員 数	職 員 数
大笹生	油井 勤	658	13	11
笹谷	遊佐久太郎	383	14	11
清水	山岸 清治	582	17	24
余目果樹	片平 善一	281	14	17
福島市余目	渡辺弥平治	221	15	11
瀬上果樹	桜田 朝栄	220	12	12
福島市鎌田果樹	菅野 徳治	249	18	11

合併の強化・経営の改善、技術の革新に邁進し
ようやく明るい兆しが見えはじめたころ、農業
についても改革が叫ばれるようになり、国は農
協法を制定し数々の関係法令を公布し、中でも
「農業協同組合合併助成法」は他に優先して公
布施行され、新しい農業発展のため農協に寄せ
る役割と期待の大きいことを現していた。

そこで、わが国経済の高度発展の中にあつて
農業の近代化を図るべく、農協機能
の整備・拡充を基調として農協合併
が行政機関や中央会・各連合会等の
指導によって進められた。

当地区にも農協合併の話は昭和
35年頃よりあったが、このような情
勢の中37年頃より合併の話が急にな
り、県と市並びに中央会との協議で
当初余目・矢野目・瀬上・鎌田地区
の4つの農協の合併ということで、
市の主導で合併協議が進められた
が、十数回開催された協議会では内
容は遅々として進まない状況だっ
た。しかし、合併前年の大詰めにな
った時期に、福島市北部の農業・農
協の状況を考えるとき経済情勢は依
然として厳しいものがあり、小さい
農協ではこれからの運営面で限界が
あること。今後の成長部門たる果樹
関係については、共選共販は時代の
流れであり、施設の充実と信販購利
の有機的運営にも大型合併は必須の
条件であるとして、3つ4つの合併
ではなく、農業経営形態の類似する
近隣の7農協の合併が最善で、この
7農協の人材と資本を生かして、今
後の農業を他の企業以上に強化すべ
きであるとの発言があり、その後の

協議会では話が急速に進み、北福島農業協同組合の誕生を見た。

その間それぞれの農協においても合併について連日協議検討がなされたが、組合員は、組合運営も諸事業の実施によって容易でない時期でもあったので、すでに農業・農協の変革期を感じとり、合併の有利性についても十分理解しており、合併機運に流されていった。

5 前途多難な船出

北福島農協の誕生から現在に至るまでの間には様々な困難があった。まず合併にあたっては当時福島県下の380農協中2割は不振農協といわれており、県はもとより中央会でも憂慮していたところであり、ご多分にもれず合併に参加した各農協の事業並びに財務内容にはそれぞれ格差があり、最終的には1800万円という欠損金を引き継いでの合併ということになり農協経営は容易ではなかった。それに追い打ちをかけるように、合併の3日前4月29日早朝に氷点下4度という大凍霜害が発生し、果樹・桑園は全滅に瀕するほどの甚大な被害を被り、さらに1000万円の赤字が累積され、この解消に5年の年月を費やす結果となった。

また、役員についても合併当初は理事33名、監事7名の40名の役員体制で、理事会は各部門担当制をとっていたため、担当以外の部門については全く勉強不足の感があり、会議の取りまとめには大変な苦労があった。その後理事19名監事4名と改正され、農協運営の合理化ということで大きな前進を見たが、さらに農協事業の多様化に伴い監事7名と改正され現在に至っている。

6 施設の充実

合併当初は清水農協に本所を置き運営を行っていたが、役職員並びに組合員の念願は本所事務所の建設であったので、1800万円の欠損金と大凍霜害により大変厳しい組合経営の中ではあったが、本所事務所を新築することになった。場所の選定にあたっては紆余曲折はあったが、国道13号線バイパスが矢野目地区に開通する予定が発表されていたことから、当時全く何もない田畑の中であったが、全ての地区からの利便を考え、現在地に決定し建築された。その後43年9月に農免道路の開通、45年4月には国道13号線バイパスが完成、さらに50年3月には東北自動車道路完成と、農協本所周辺の幹線道路網が完成した。支所についても順次新築がなされ、時代にマッチした事務所として生まれ変わった。

また、農協としては早くから全面共選の方針を打ち出していたが、全面共選作業を行う施設がなく、支所間に生産物の品質差と販売価格差があまりにもあってその体制が整うまで15年の歳月を費やした。その間合併2年目には本所共選場、さらには大笹生・笹谷・清水3地区合同の共選場ということで、43年西部共選場が設置された。しかし、これでもまだ全面共選には無理があり、56年西部りんご共選場が建設され、名実共に全面共選体制が確立された。さらには、果実冷蔵庫、低温農業倉庫、育苗センター、販売倉庫、いちご株冷用冷蔵庫等の施設を設置し、果樹・水稻等の産業進展の基礎を確立した。

その他農協スーパー（後のAコープ）、燃料センター並びに給油所、自動車整備工場も設置し、平成4年には青果物直売所を設置する等組合員・地域の方々の生活の向上とニーズに基づいた積極的な事業展開に努め、大きな評価と信頼を得ている。

Ⅲ 年 表

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
23年		5.29	貯蓄優績 農林中金支店長表彰（余目果樹）
5.13	清水農業協同組合発足	5.	凍霜害対策地区民大会開催
6.11	大笹生村農業協同組合発足	6.12	共済優績 全共連表彰（清水・余目果樹）
6.25	余目村果樹農業協同組合発足	7.	販売精算に電算を導入 ・大凍霜害に見舞われ前途多難な船出
7. 2	笹谷村農業協同組合発足	40年	
7.12	福島市鎌田農業協同組合発足	3.15	第1回通常総会
7.16	余目村農業協同組合発足	4.16	本所事務所新築移転
8.13	瀬上農業協同組合発足	5. 7	有線放送電話施設完成通話開始
24年		5.25	有線放送一斉放送開始
10.26	鎌田果樹農業協同組合発足	6. 6	本所共選所新築落成
26年		9.30	笹谷支所新築落成
7.16	信夫郡笹谷村農業協同組合に名称変更	11.13	合併1周年記念第1回農業祭
27年		12. 1	スーパー開店
3.31	余目果樹農協 総合農協に認可される	41年	
7.14	瀬上果樹農業協同組合に名称変更	5.16	有線放送電話と電々公社線接続開始
29年		5.30	系統利用優良 経済連表彰
3.31	余目村が福島市に合併	8.	水稻空中防除実施 予想以上の米の増収
6. 4	余目果樹農業協同組合に名称変更	12.26	有線放送電話交換機増設 ・開拓パイロット事業による小国樹園地造成
7. 7	福島市余目農業協同組合に名称変更	42年	
30年		3.	県農協更生特別措置要綱の指定受ける ・りんごに一部不稔現象発生 ・第1次農業構造改善事業による俎板山園地造成
3.31	大笹生村と笹谷村が福島市に合併	43年	
7.29	大笹生農業協同組合に名称変更	7.	西部共選所新築落成
8. 9	笹谷農業協同組合に名称変更	8.	燃料センター第1給油所オープン
32年		9.	北部地区基幹農免道路完成 ・果樹病害が発生し生産者に経済的打撃を与える ・第1次農業構造改善事業によるあけび沢樹園地造成
5.31	系統利用優良 経済連表彰（清水）	44年	
33年		5.27	系統利用優良 経済連表彰
6.17	福島市鎌田農協と鎌田果樹農協が合併して福島市鎌田果樹農業協同組合となる	8.	果実冷蔵庫完成 果樹産業進展の基礎一段と確立 ・合併時からの欠損金完全解消
34年		45年	
5.30	系統利用優良 経済連表彰（清水）	1.	国道13号線バイパス完成 ・旱ばつによる果樹の生育不良
36年			
6.27	共済優績全共連表彰（清水）		
11. 2	県農協大会において優良農協の表彰受賞（清水）		
11.30	更生特別措置の指定を受ける（大笹生）		
38年			
6. 6	共済優績 全共連表彰（大笹生・余目果樹）		
39年			
4.29	大凍霜害発生 果樹・桑園に潰滅的打撃		
5. 1	大笹生農協、笹谷農協、清水農協、余目果樹農協、福島市余目農協、瀬上果樹農協、福島市鎌田果樹農協が合併し北福島農業協同組合誕生		

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
46年		53年	
3. 21	第7回通常総会（役員定数削減承認）	11. 20	鎌田支所新築落成
6. 1	電算システム開始（経理・人事給与）	54年	
6.	低温農業倉庫新築落成	5. 23	共済優績 全共連表彰
7.	自動車整備工場開設	10. 16	台風16号による風害発生（被害6億円）
10. 1	電算システム開始（営農取引業務）	12. 12	合併15周年記念式典 ・梅雨明遅れ長雨、台風16号・20号来襲 米作に大打撃 ・貯金高100億円確保の金字塔
47年		55年	
2. 25	燃料センター第2給油所オープン	2. 9	共同防除発足10周年記念式典
4. 26	余目支所新築落成	7.	西部りんご共選所完成
5. 26	系統利用優良 経済連表彰	9. 1	北福島農協冷害対策本部設置
5. 30	計算センター、育苗センター、販売倉庫 第2給油所、農産物集出荷所落成	12. 15	多雪による棚倒壊などの被害続出 ・明治35年の大冷害に次ぐ冷夏
8. 24	笹谷支所新築落成	56年	
12. 5	スーパー矢野目店オープン	2. 23	オンライン業務開始
48年		5. 14	西部りんご共選所落成 全面共選体制整 う
3.	第9回通常総会（総代会に変更）	5. 25	系統利用優良 経済連表彰
6.	北福島開発株式会社設立	8. 23	台風15号による青果物の被害甚大
7. 24	本所構内舗装工事	8. 24	矢野目支所新築落成
11. 7	合併10周年記念式典	10. 23	台風24号による青果物の被害甚大
12. 15	大笹生支所新築落成 ・60年来の大早ばつ 販売は順調な実績	57年	
49年		5. 27	系統利用優秀 経済連表彰
10.	いちご株冷用冷蔵庫落成	10. 1	りんご消費宣伝りんご娘派遣（岡山市場）
11. 22	本所事務所増築落成 ・石油ショックによる生産資材、飼料の 高騰 ・長雨低温による農産物の品質低下	10.	瀬上支所新築落成
50年		11. 17	第28回県農協大会において優良農協の表 彰受賞 ・3年続きの冷害により各事業未達
3.	東北自動車道開通	58年	
5. 29	系統利用優良 経済連表彰	5. 20	共済優績 全共連表彰
9. 1	余目支所給油所オープン ・5月に大電害 販売は順調に推移 ・東北自動車道開通し販売の新時代へ	9. 26	年金友の会設立
51年		11. 1	Aコープ清水店改装オープン ・7、8月天候不順 4年連続の冷害 ・りんごの生産100万トン時代に入る
5. 27	系統利用優秀 経済連表彰 ・異常低温 農作物減収と品質低下 ・ぶどうの販売高1億円突破	59年	
52年		1. 5	佐久間慶一組合長逝去
3. 25	第13回通常総代会（監事定数7名に増員）	10. 31	婦人部結成20周年記念式典
6. 25	「全国農業協同組合連合会」「全国共済 農業協同組合連合会」へ直接加入	11. 1	A T M（現金自動受払機）稼働
7. 15	清水給油所オープン	11. 2	合併20周年記念式典 ・春先の異常寒波・夏の早ばつにより果 樹等農作物減収 ・救済融資対応
9. 12	清水支所金融店舗新築落成 ・ぶどう「ネムリ病」発生 収量半作 ・2年連続の冷害 農作物の被害大		

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
60年		2 年	
2. 7	家の光文化奨励賞受賞	3. 15	対米輸出なし取扱い打合せ会
6. 24	販売精算システム稼働	4. 10	購買集中配送システム稼働
6. 29	中日友好親善使節団来訪	4. 12	サクランボ研究会設立
8.	ヨーロッパ果樹栽培・販売視察	4. 16	静岡県焼津市農協と姉妹農協提携調印式
9. 10	瀬上支所C D稼働	5. 18	系統利用優秀 経済連表彰
61年		6. 21	洋なし研究会設立
5. 27	系統利用優良 経済連表彰	9. 20	向瀬上共選所閉所式
8. 1	自動車整備工場車検システム稼働	11. 19	対米輸出なし出荷者打合せ
8. 5	大笹生、鎌田支所C D稼働	12.	なし販売額6億円突破生産者大会開催
8. 13	燃料センター第2給油所新装オープン	3 年	
8. 25	余目支所C D稼働	6. 22	米市場開放阻止街頭宣伝
10. 31	農協総合力強化対策推進委員委嘱状交付 第1回委員会	6.	果樹振興対策事業 西部なし共選所果実 選果機導入
62年		11. 15	福島市・伊達地区フライト農業研究会
5. 21	共済優績 全共連表彰	4 年	
5. 28	共済友の会設立	2. 17	福島市農協合併研究会設立
8. 10	購買事業オンライン開始	4. 1	農協のC I 導入 愛称「J A 北福島」と しJ Aマーク使用開始
11.	りんご「ふじ」強風による落果大被害発 生	5. 27	系統利用優良 J A福島経済連表彰
12. 7	笹谷支所新築落成 C D稼働	6. 15	J A北福島21戦略推進委員会設立
12. 23	笹谷支所落成式	8. 5	青果物の直売所「くだもの浪漫J A北福 島」開設 ・「J A北福島21戦略1期3ヵ年運動」 の第1年度として、「農業づくり・地 域づくり・J Aづくり」に取り組む
63年		5 年	
1. 9	農協五連OB北福島農協協力会結成	2. 4	第43回家の光文化賞受賞
3. 27	高倉好一組合長逝去	2. 13	J A北福島C I 推進大会開催
5. 21	共済優績 全共連表彰 ・7月以降の低温長雨日照不足等の異常 気象により農作物に甚大な被害発生	4. 12	福島市J A合併促進協議会設立総会
元年		4. 14	「J Aふれあいガーデン」開園
1. 19	臨時総会（福島県畜産農業協同組合連合 会脱退）	7.	大笹生地区農業基盤整備事業推進委員会 設立
5. 29	系統利用優良 経済連表彰	10. 1	福島市J A合併予備契約調印式
7. 8	東部給油所（アップルランド）オープン	10. 23	臨時総会（福島市8 J A合併「新ふくし ま農業協同組合」設立）
7. 30	資産運用部会設立	10. 25	新ふくしま農業協同組合設立委員会発足
10. 20	Aコープ清水店全面改装オープン ・8月の台風13号により農作物に大被害	11. 22	J A北福島合併30周年記念式典
		6 年	
		1. 31	J A北福島解散

Ⅳ 資 料

(平成5年度末現在)

1 組 合 員

()は戸数

正 組 合 員		准 組 合 員		合 計	
個 人	法人	個 人	団体	個 人	法・団
1,937 (1,823)		1,674 (1,400)	10	3,611 (3,223)	10

2 役員及び参事

代表理事組合長 松 野 正 記	理事 渡 辺 新 市
理事 油 井 周二郎	理事 中 村 登
理事 高 沢 敬太郎	理事 阿 部 芳 信
理事 小 熊 盛 男	理事 古 山 次 雄
理事 吾 妻 久 男	理事 大 谷 勝 英
理事 千 葉 惣 一	代表監事
理事 高 橋 繁 一	小 出 喜 男
理事 斎 藤 隆 昌	監事 栗 原 忠 浩
理事 安 斎 保 昌	監事 武 田 正 浩
理事 斎 藤 福 也	監事 野 崎 隆 一
理事 西 坂 美 郎	監事 久 間 木 忠 雄
理事 安 濃 兵 衛	監事 小 野 剛 一
理事 中 村 壮 夫	監事 渡 辺 利 昭
理事 遠 藤 正 雄	参事 末 永 弥 市

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
127	42	169	11	2

4 協力組織

名 称	代 表 者	会員数
農事振興組合	大 内 茂	3,621
婦人部	斎 藤 フ ミ	748
フレッシュミセス部	関 根 文 子	107
青年部	高 橋 克 志	68
年金友の会	太 見 義 一	2,246
共済友の会	渡 辺 健太郎	285
資産運用部会	渡 辺 正 一	207

5 生産部会

名 称	代 表 者	会員数
りんご専門部会	阿 部 輝 夫	973
もも専門部会	板 垣 清 一	648
なし専門部会	佐 藤 健 一	423
ぶどう専門部会	渡 辺 彦 吉	110
いちご専門部会	吾 妻 良 治	98
ニラ専門部会	片 平 八 郎	17
水稻専門部会	小 野 金 悦	1,381
さくらんぼ専門部会	松 川 俊 孝	36

6 主な施設

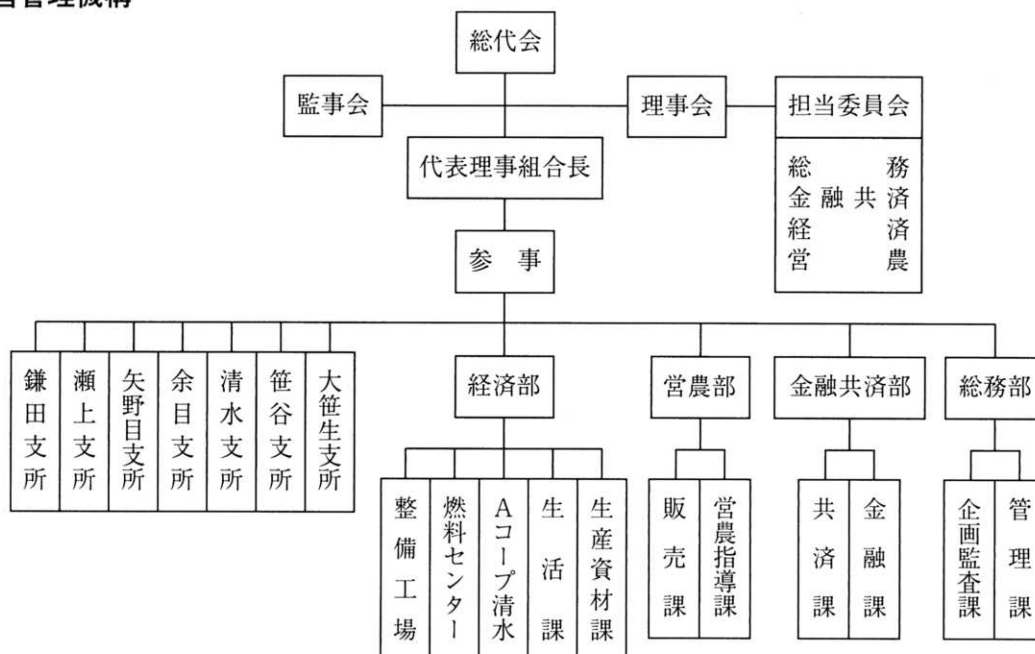
名 称	所 在 地
本所	北矢野目字原田東1-1
大笹生支所	大笹生字戸ノ内31-1
笹谷 〃	笹谷字中町10の1
清水 〃	泉字堀ノ内6の2
余目 〃	下飯坂字黒木宮2-2
矢野目 〃	北矢野目字西田19-10
瀬上 〃	瀬上町字本町57-2
鎌田 〃	丸子字石名田17-4
Aコープ清水店	泉字堀ノ内6-2
燃料センター	北矢野目字原田東15-10
第2給油所	〃 〃 15-8
清水 〃	泉字堀ノ内6-2
東部 〃	鎌田字下鎌13-1
自動車整備工場	北矢野目字原田東15-1
本所共選所	南矢野目字徳元北10-1
西部 〃	笹谷字吉原37-1
西部りんご 〃	〃 〃 35
農業低温倉庫	北矢野目字原田東13-3
果実冷蔵庫	〃 〃 14-2
購買倉庫	南矢野目字徳元北11
青果物直売所	北矢野目字原田東13-3
有線放送電話	〃 〃 1-1
I B M A S 400	〃 〃
車検整備システム	〃 〃 15-1

7 歴代組合長・常勤理事・参事

組 合 長		常 務 理 事	
39～45	山岸 清治	52～54	高田 豊
45～58	佐久間慶一		
59～61	大内 一次		
61～63	高倉 好一		
63～6	松野 正記		

参 事			
39～43	鈴木 仙七	57～1	須田 鉄二
43～48	山岸 清美	1～3	渡辺喜一郎
48～52	新村 繁雄	3～6	末永 弥市
52～57	島貫 兼吉		

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

大笹生農協

23～29	松川 義衛	32～36	紺野 久
29～32	佐々木哲治	36～39	油井 勤

笹谷農協

23～24	佐藤 信	29～30	菅野 鶴寿
24～29	斎藤 三郎	30～39	遊佐久太郎

清水農協

23～24	佐藤 忠助	35～39	山岸 清治
24～35	佐久間久吉		

瀬上果樹農協

23～39	桜田 朝栄
-------	-------

余目果樹農協

23～24	高橋 銀蔵	31～32	片平 善一
24～29	中村新右エ門	32～33	渡辺金右エ門
29～30	阿蘇末次郎	33～39	片平 善一
30～31	福地 庄市		

福島市余目農協

23～26	渡辺太寿男	35～38	佐藤 伝六
26～31	斎藤正保重	38～39	渡辺弥平治
31～35	佐藤 周助		

福島市鎌田農協

23～24	後藤 一郎	27～33	菅野 徳治
24～27	渡辺 弥重		

福島市鎌田果樹農協

33～39	菅野 徳治
-------	-------